

「伝え合う力」を育てるために

——インタビュアー・聞き書き・新聞づくりを通して——

雲 山 由美子

一 はじめに

「伝え合う力」という言葉をよく耳にするようになった。「伝え合う力」を育てていくには「一方的に伝える経験」を重ねるだけでなく、「聞きあう経験」を大事にしなければならぬ。しかしながら小・中学校に比べて高校は依然として「読解」中心の授業である。とりわけ現任校は県内有数の進学校として地域からの期待も大きく、各教科担当は大学進学を意識した授業を熱心に展開していくことになる。生徒達も黙って講義を聞くことに慣れてしまい、一方的に教師から与えられた知識を詰め込むことに専念している。小・中学校において友人との意見を交換し、発表の仕方について学んでいるはずなのに、その力が生かされないのである。こうした状況の中で生徒達の「国語の力」を高めていくにはどのような授業が好ましいのだろうか。折しも現任校は中高一貫教育の推進校として平成十五年からスタートすることになった。総合的な学習と合わせて国語科の責任はますます重要視されてくる。

今回の発表は、「淡海」とのは研究会^①での実践から見えてくるものについて報告したい。本研究会は県内のさまざまな高校の国語の教師（六名）で構成されている。これまでも共通のテーマを設定し、そのテーマのもとで各校の実態に合わせた授業展開を模索してきた。平成十年には「バブリックスピーチを導入した授業実践」を行った。その研究の結果バブリックスピーチが「話す力」の向上をもたらす効果を明らかにすることができたが、同時に「話す力」を育てていくには、「話す経験」を重ねるだけでなく、「聞くこと」も大事にしなければならぬこと、また、「聞くこと」の中から生徒自身が成長していくという側面が少なくないということが分かってきた。この研究成果を踏まえて、今回は「聞くこと」にポイントを置き、「聞くこと」と「書くこと」とを関連づけた指導法を探ってみた。

「総合的な学習」においては調査活動が重視されるが、その際、文献調査と共に多用されるのがインタビュアーである。聞き取ってきたことを表現する方法として「聞き書き」が考えられる。インタビュアー指導を具体化するにはどんな授業展開が考えられるか。更に「聞き書き」による文章化をさせるにはどのような手立てが考えら

れるか。「総合的な学習」に取り組み際の学習の「発展」と「収束」の方法を明確にしたい。

二二〇〇年度一学期の各校の取り組み

水口東高校（雲山の実践）

1 あなたの隣はどんな人？

授業開きで、隣の人にインタビューし、紹介文を書く。

まだ、入学して間もない中で授業中は緊張している状態が続いていたが、全員が隣の人と話をする事によってクラスのムードが和やかになったようである。また、単なる自己紹介よりも、詳しく自分を紹介してもらえたことにより、友人関係がスムーズにいくきっかけになったと思われる。

- ① 隣の人と机を向き合わせる。
- ② インタビューの項目を決める。
- ③ 五分間インタビューをする。
- ④ 一五分間で紹介文を書く。
- ⑤ 自分のことについて書かれた紹介文を読み、感想を書く。
- ⑥ 次の時間、クラス分印刷し、全員に配布する。

2 山崎正和「水の東西」

- ① 山崎正和「水の東西」を全員で読む。
- ② 構造図の説明をする。
- ③ 隣の人と六分間、要旨を述べ合う。

- ④ お互いの意見を取り入れながら、それぞれ要旨をまとめる。
- ⑤ 次の時間、うまくまとめた代表的なものを五人分印刷して紹介する。

3 芥川龍之介「羅生門」

芥川龍之介「羅生門」の学習後、登場人物「下人」「老婆」になりきり、それぞれにインタビューをする。

- ① それぞれが質問事項を二点以上考える。
- ② 隣の人と机を向き合わせる。
- ③ 「聞く」側と「答える」側に分かれる。
- ④ 机の位置をずらしていき、違う相手にインタビューを行う。
- ⑤ 「下人」・「インタビューア」・「老婆」・「インタビューア」と計四回の役割を演じ、用紙に記入する。
- ⑥ インタビューを終えて、もう一度「羅生門」の登場人物の生き方について考える。
- ⑦ 友人の感想を回し読みする。
- ⑧ 授業の感想を書く。

4 壁新聞

文化祭で「福祉について考える」というテーマで一学年が統一して壁新聞を作った。

- その際、先生方にインタビューをして、記事としてまとめる。
- ① 壁新聞のテーマを「バリアフリー」に決める。
 - ② 計四人の先生に取材協力を依頼する。

- ③ 二人一組となり、職員室の先生の所にインタビューに行く。
- ④ 一人は聞き役、一人はメモをとる。
- ⑤ 記事をまとめた後、先生に意図が通じているか、確認をとる。
- ⑥ 壁新聞としてまとめる。

5 夏休みの課題

夏休みの学年の課題として「進路学習職業研究」に取り組むため、それぞれが職業を持っている人にインタビューをしてまとめることを国語科の課題とした。

- ① 「職業まるわかり辞典」(進研プレス・ベネッセコーポレーション)を配布する。
 - ② 二年生になると文理コースに分かれるので、その説明をする。
 - ③ 進路決定をする際、将来どんな職業に就きたいのかを考える必要があることを述べる。
 - ④ 夏休みに職業研究をしてもらうことを告げる。
 - ⑤ 自分が就きたい職業の方に実際にインタビューをし、レポートをまとめることを指示する。
- (インタビューをする人が見つからない場合は親戚・親・隣人など身近な職業人でもよしとする。)

6 まとめ

A どういう配慮をしたか。

授業開きでは入学後間もないため、緊張状態が続いていたので、できるだけリラックスして話ができるようところがけた。

また、うち解けて話をするのでできる雰囲気作りを心配り、友人の意見に耳を傾けることのできる誠実さについて話をした。

先生へのインタビューにあたっては言葉遣いや態度について事前に指導し、先生方に協力を依頼した。

B どういう力をつけることができたのか。

自分の思いをわかりやすく相手に伝えることの意識化や、相手から聞いたことを的確に文章化すること。

架空インタビューでは老婆・下人になりきることににより、物語に深く入り込むこと。

インタビューした内容をその場でメモ書きにし、文章にまとめる力。

守山高校(長井教諭の実践)

1 あなたの隣はどんな人？

授業開きで隣の人にインタビューし、それをもとに隣の人の紹介文を書いた。

- ① 二人組になる。
- ② インタビューの項目を決める。「夢」については必ず聞くよう指示する。
- ③ 三分間でインタビューする。
- ④ 一五分間で隣の人の紹介文を書く。
- ⑤ 隣の人とプリントを交換し、紹介文を読んで感想を書いてもらう。
- ⑥ 紹介文をクラス分印刷し、全員に配布する。

2 ひとすじの道

東山魁夷の「ひとすじの道」を学習した。最初に、「この教材では板書はしない。『聞く』ことを大事にし、メモの取り方を工夫しよう。」と指示をして、授業を始めた。

① 終了後、各クラス六つのグループを作り、各自のノートを読み返し読みし、各グループで最優秀のノートを選んだ。

② 教師が六グループの中からクラス最優秀のノートを選ぶ。それを、クラス全員分印刷し配布する。教師がそのノートのどこが良いか説明する。

③ 自分が「印象に残っている道」を作文し、回し読みし、友達に感想を書いてもらう。

3 旅について

三木清の「人生論ノート」より「旅について」を学習した。「ひとすじの道」の学習を受け、今回も板書はしない、今回は最後に「構造図」を書く、と指示した。

終了後、構造図をまとめる時間を一時間とった。「ひとすじの道」のノートと同じ要領で各クラス最優秀作を印刷し、配布した。

4 空飛ぶ男

安部公房の「空飛ぶ男」を一時間で学習した。

① 黙読し、最初の感想を書く。

② 三人組になり、「地の文」「ぼく」「空飛ぶ男」のいずれを読むかを決める。三人組で朗読する。

③ 朗読してからの感想を書く。

5 舞姫

森鷗外の「舞姫」学習終了後、登場人物（豊太郎・エリス・相沢）に質問する、という課題を設定した。以下の要領で実施した。

① 質問事項を考える。

② 四人のグループを作る。二人組で「聞く」側と「答える」側に分かれる。豊太郎については、ディベート形式で行う。

③ 本日の感想を書く。

6 ミニ聞き書き

夏休みの宿題として聞き書きを課するにあたって、「ミニ聞き書き」を実施した。

① 聞き書きについて説明する。立花隆の「二十歳の頃」、ノートルダム清心女子大学学生の聞き書き集（田中宏幸先生指導）を例示する。それを読み、文章の型として「インタビュー型」「訪問記型」「なりきり型」の三種類を説明する。

② 教師がゲストになり、生徒に順番にインタビューさせる。

③ インタビューをもとに文章を書く。

④ 隣の者と交換し、読み合う。

⑤ 夏休みの課題について説明する。

7 まとめ

A どういう配慮をしたか。

板書を写すだけではなく、自分なりのノートの取り方を工夫する。夏休みに聞き書きを実施するにあたって、ミニインタビューを体験する。

B どういう力をつけることができたのか。

板書がなく自分でノートを取るため、教師の話を能動的に聞いていた。感想の回し読み、ミニインタビューを通して、級友との意見交流に抵抗感がなくなった。

大津高校（石川教諭の実践）

今年大津高校に転勤してきたばかりである。前任校の生徒たちよりも自分を表現することにより抵抗がないように見えて、新しい試みもできるのではないかと期待しつつ、いくつかの取り組みを試みたので、それを以下に記す。

1 他己紹介

① 出席番号を記しただけのカードを全員が引く。

② 相手をなんとか探して、「氏名」「今凝っていること」「高校生活でやっておきたいこと」などの項目を記したプリントを片手にインタビューをする。

③ インタビューが終わったら、全員の前で、インタビューした人がその相手をみんなに紹介する。

↓良かった点 まだ、顔と名前の一致しない相手を出席番号だけを頼りに探し出すことはなかなか大変な分、見つけたときの喜びが大きく、入学して間もない時の緊張感が多少ほぐれるよう

であった。また、一時に教室の中で二〇個のインタビューが展開されるので、小さな声では聞き取れないため、普段声の小さな生徒も大きな声を出していた。

↓反省点 短時間で一気に行ったためか、類型的な答えが多かった。

2 好奇心について

① 現代文の授業で、森本哲郎の「奇を好む心」という単元を学ぶ。

② 「みんなはどんな好奇心を持っているのか」インタビューする。「そのことに興味を持つようになったきっかけは何か」「そのことのおもしろさはどこにあるのか」など。

③ プリント数枚にまとめ、配布。
↓良かった点 入学当初から排他的であった、ある女子生徒がインタビューした相手の「興味ある対象」は「人間」であった。彼女は感想欄に「人と仲良くなりたいという心がけにはすばらしいものがある。今の私にはそれがなくなってしまうたよだ。」と記していた。それまで日誌などに「むかつく」などと書きなぐっていたこともあり、担任の先生に彼女の感想をお見せしたところ、「こんなことも思っていてくれるんなや」と彼女の違う面に気づいていただくことができた。
↓反省点 時間的余裕がなく、最終的に「発表」の形にまでもっていけなかった。

3 一〇〇分LHR

- ① 本校には同和統一LHRの一つとして「一〇〇分LHR」というものがある。同和課から示された一年生のテーマは「高校生活をどう送りたいか」であった。
- ② 事前にいま、「聞く・話す」とはどのような意味をもっているのかについて話した。今まで国語の授業で取り組んできたことについても話した。

③ 生徒作成の発表用原稿に目を通し、「あなたでなければ言えないこと」を発表するよう、促した。

④ 発表当日、協力者の先生分も含め、四二枚のくじをつくり、順番に引いて発表。聞くものはメモを取りつつ聞く。

⑤ すべての発表後、改めて今の思いを原稿用紙に書く。

↓良かった点 「聞き手こそが今日の主役」と事前指導しておいたが、その熱心な聞き入りように何人かの生徒が、突然、まさに「自分の言葉」で、自分の胸の奥底の思いを語りだした。聞き手たちはその話の重さと、そしてそれを淡々と話してくれたことへの驚愕にも似た感情に静まりかえった。時には壇上で涙する生徒とともに、全員が気持ちと同じくして深い沈黙が流れることもあった。それは同情を超えた「共感」であったと思う。また、「今までつらいのは自分だけだと思っていたが、決してそうではなかったという事に気づいた」という感想がいくつもあり、彼らが小さな自分だけの世界から他者の世界へと目を向けるきっかけになったと思う。事後のアンケートではほとんどの生徒が、この時間を大変有意義なものと感じてくれていた。事後

に生徒たちが書いた文章も打ち直して配布した。

↓反省点 「ひとり一分」の持ち時間ではあったが、一人ひとりにコメントをしたり、拍手をしたりしていたため、最後の方は時間に押されてしまい、十分に意を尽くせなかった生徒もいたと思う。

4 芥川龍之介「羅生門」

① 「羅生門」学習後、「あなたも一瞬インタビュー」のプリント作成をする。

① 回し読みをする。

③ 授業の感想を書く。

↓良かった点 今まで自分の書いたものを友達に読んでもらったが、また、反対に人のものを読んだりする機会がほとんどなかったようので、先生以外のものから評価を受けることが楽しかったようである。

↓反省点 時間不足のため、今回「ひとりインタビュー」ということになった。生徒同士がなまの言葉でやりとりする相互インタビューとの関連を考えていきたい。(二学期に実施した)

5 一学期の総括

A どういう配慮をしたか。

生徒たちは一斉授業の中で黙って講義を受けることには慣れていますが、自分で発言することについては腹痛や登校拒否を起こしかねないほどの抵抗感を持っている。人との関わり方が難しくなってきた

いる社会の中で、国語の授業もまたその波の埒外にいることはできない。しかし、だからこそ国語の授業の中で、こういう取り組みをしていくことが大切なのだと思っている。ヒトがその成長期においてまず、周りにいる人々を信じられることが大切であると心理学の世界でも言うように、授業で取り扱う言語活動の中でも「信じあえる関係」づくりに配慮してきた。国語の授業の中で、授業者の配慮が足りないために思わぬ結果を招いたり、話すことへの恐怖心が先立ってしまうことになるようでは逆効果だからである。生徒たちが安心して心を開く環境づくりが、言語活動の第一歩であると思ひ、主にその面で配慮をしたつもりである。

B どういう力をつけることができたのか。

前述Aに引き続いて述べるならば、言語活動に不可欠な、「自分の心を伝えようとする勇氣」と、自分の心と同じくらい相手の心を大切にする「察する心」を育てるきっかけが作れたと思っている。紹介やインタビューを通して、主体的に自分を伝え、他人の心を受容することの喜びを感じる力を多少なりともつけることができたのではないだろうか。

甲西高校（猪飼教諭の実践）

1 あなたの隣の人はどんな人？

授業開きの日に「あなたの隣はどんな人？」というので、ペアにして、五分間ずつインタビューする。名前、高校生活でやりたいことだけは指示しておき、後は自分で考えて聞くようにした。一八七字の枠目を用意し六分間計って、各自書けるだけ書かせる。全員立

たせて、書けた行数を言って、座らせていく。陸上競技でもマラソンなどをすると自分がクラス内のどの位置にいるか目でよくわかるが、「文字数マラソン」と考えると、自分がクラス内で早い方なのか遅い方なのかよくわかる。一年後、同じ六分で自分の書ける量が増えるように、量の書ける人は、内容の質を上げるようにする。つまり、人との競争ではなくて、自分の中の競争であると話をする。

相互に相手の書いたものを読んで、相手のプリントに読んだ感想を書く。最後に隣の人の書いてくれた感想も読んで、授業の感想を書く。「こんな授業でないとしやべれないことが聞けたのでよかったです」というのが大半であった。「心が育ち、広がるような授業のような気がする」と書いた生徒がいたのには驚いた。

2 森本哲郎「奇を好む心」

——その人になつたつもりで書く

教科書「奇を好む心」（森本哲郎著）の学習後に、ペアの人が一番興味を持つていることを相互に五分ずつインタビュー。六分で書かせる。

今回は、インタビューしたその人本人になつた気持ちになつて書くというのにした。「前回よりたくさん書けた人」と手を挙げさせると、ほぼ全員がうれしそうに顔を挙げていた。「よかつたなあ」というと、生徒自身の中にも感じるものがあつたようだ。トコロテン式に三〇秒ずつ計って、時間が許すだけ「回し読み」をしていく。その後、本人にもどし、人のものを読んだ感想と授業の感想を書かせる。「他の人が興味を持つていることがよくわかつてよかつた」

と他人のことを知る喜びをほとんどの生徒が書いていた。「これだけの文章を書こうとすると、インタビュ어의仕方に工夫がいる」と次の課題になるようなことに気がついた生徒もいた。

3 短歌・俳句

短歌の世界「その子二十」と俳句「こころの帆」を学習した後、乾憲雄先生（芭蕉の研究者）の俳句の講演を聞いて隣の人に一番印象に残った話を聞く

——その人になつたつもりで聞く

乾先生に芭蕉や俳句についての講演をしてもらう。二クラス合同で、先生の話を三〇分聞く。他のクラスの人に、講演の中で一番印象に残った話をインタビュールし、その人になつたつもりで六分間書く。隣の人の書いたのを読んで、感想を書き、授業の感想を書く。

「先生のお話を聞くことが出来てすごくためになつたし、楽しかった。他のクラスの人に印象に残つたことを聞いたたりしたのも話しくかったけど、新鮮な感じでもよかつた」というのが大半の反応。「何か心にうつつなえかけ、生き方の指導をしに来られたような気がした」「普通の国語の授業では教えてもらわないようなことを教えてもらったように思う」と書いた生徒もいた。

4 情報との連携—総合的学習の先取り

甲西高校の先生にインタビュールして、聞いたことを書く

*書く時に現代社会の先生の授業で、コンピュータを使って記事を完成する。

第一—三段階までの取り組みを説明し、今回は現代社会の先生の授業までに甲西高校の先生方にインタビュールしてきて、コンピュータを使って、文章を完成する。夏休みには他の教科と連携して、外部の方にインタビュールに行く計画なので、言葉遣いなど、気になる点について、指導の協力を全職員にお願いした。

生徒の感想としては「初めて先生のいろんなことを聞いたと思う。その取り組みはコンピュータを使ってやったのでとても楽しかった。こんな授業を増やしてほしい。文字を入力しているうちに、先生の印象がどんなのか知つたような気がした」

また、各先生別に生徒の作成文章を読んでもらつた。アンケートに答えてくださった先生の感想は、「こんな機会を与えてもらつてよかつた」。現代社会の先生も「二学期も何かやりましょう」と言つてくださった。

5 一学期の総括について

現代国語の授業についての生徒感想文を読み、隣の人はどんな感想を持ったのかインタビュールしてその人になつたつもりで書く。

ポイントと思われるところにアンダーラインを引きながら、二〇分で読む。読んだ感想を六分間で相互にインタビュールし合う。その後、六分間で相手の感想を本人になつたつもりで書く。隣の人に書いたものを読んでもらい、感想を書いてもらつてから、授業の感想を書く。生徒は一学期の自分たちのやった取り組みを振り返つて、自分が選ばなかつた項目についても考えさせられたようである。

6 夏休みの課題

現代社会・家庭科の課題と連携してインタビュー・調べ学習などをして、課題を仕上げる。どちらの課題も地域の人にインタビューしたことを載せるというのが条件になっている

- ・現代社会―地域の祭りについて調べる
- ・家庭―老人問題について調べる

7 まとめ

A どういう配慮をしたか

段階的に取り組んでいくことにより、取り組みをスムーズにしようとしたこと。

他教科の先生に働きかけ、取り組みに厚みをもたせたこと。

B どういう力をつけることができたのか

「聞き書き」するのはおもしろいですが、文章にしようと思うと「聞き方」の工夫が要ると理解させ、「聞き方」が上手になったこと。

C 生徒の反応

―― 中間調査の時点でアンケートをした。

・インタビューについて

おもしろい 85% どうでもよい 7% いやだ 8%

・インタビューしたことを書くことについて

人のことがわかっておもしろい 71% どうでもよい 16%

いやだ 13%

・友達が書いた文章を回し読みすることについて

おもしろい 87% どうでもよい 6% いやだ 7%

・自分の文章を回し読みされることについて

おもしろい 18% どうでもよい 32% いやだ 50%

三二〇〇年度二学期の各校の取り組み

水口東高校

1 夏休みの報告をしよう。

① 隣の人と机を向き合わせる。

② 「夏休みの体験」「九月からの抱負」についてインタビューする。

③ 一五分間でまとめる。

④ 次の時間に全員分、印刷し、配布する。

2 校長先生の話をお聴こう。

① 校長先生に話をしてもらおう。

② 聴いた内容を用紙に記入し、校長先生に質問したいことを隣の人と相談する。

③ 二人で一項目、校長先生に質問する内容を決める。

④ 本日の感想を記入し、校長先生への手紙を書く。

3 インタビュー記事をまとめよう。(資料①)

① 夏休みのインタビュー記事をそれぞれ文章化する。

② クラスで一人三分ずつ時間を取り、発表する。

③ 記事をまとめたものを回し読みし、コメントを書いて返却

する。

4 太宰治「富嶽百景」の新聞を作ろう。

- ① 「富嶽百景」の読解をする。
- ② 作品の中で取り上げたい人物を決めて新聞記事を作る。(片桐啓恵先生の実践例を参考にした)
- ③ 架空インタビューを行い、囲み記事に入れる。
- ④ 作品の回し読みをする。

5 唐詩を読んで手紙を書こう。

- ① 杜甫、李白、王維、白居易、杜牧の唐詩を学ぶ。
- ② 二人組で、なりきりインタビューをする。
- ③ 自分が好きな詩の作者に手紙を書く。
- ④ 回し読みをする。

6 一年間に学んだ古典の中から一つ選び、新聞を作ろう。

- ① 古典の授業で学んだ作品の中から一つ選び、各自が新聞を作る。
- ② 作中の人物との架空インタビューを行い、囲み記事に入れる。
(資料②)
- ③ 作品の回し読みをする。
- ④ 優秀作品は図書室で掲示する。

7 まとめ

A どういう配慮をしたか。

初めは自分の書いたものを友人に見られることや自分の意見を伝えることにとまどいを見せ、消極的であった生徒達が、回を重ねるうちに友人の意見を聞いたり、自分の文章にコメントされたりすることに喜びを感じるようになっていった。ここには、学びあう集団としての信頼関係やリラクセスした雰囲気関係していると思われる。

B どのような力をつけることが出来たか。

発表や意見交換、インタビューをする中で、自分の考えを深めたり、言葉の運用について考えられるようになった。また、回し読みをする中で友人の良いところを指摘しあい、自分の意見を伝えることに自信を持てるようになった。

夏休みにインタビュー記事をまとめ、友人の聞き書き集を回し読みする中でさまざまな職業観に触れ、自分の生き方について考えるきっかけとなった。また、「聞き書き」の活動により理解力・構想力を養うことができた。

守山高校

1 聞き書きの回し読み

- ① 二学期最初の現代文の時間に、隣同士で夏休みの宿題のプリントを交換しあい、「友達から」の欄に感想を記入してもらう。
- ② 一時間を使って聞き書きプリントを回し読みする。その後、今日の授業の感想を書く。

2 二十歳の頃―自分篇

- ① 隣同士で二十歳の頃についてのインタビューを三分間する。
- ② 相手になりきって、隣の人の二十歳の頃を二〇〇字で書く。
- ③ 今日の感想を書く。
- ④ 次の時間に八〇〇字で「二十歳の頃―自分篇」を書く。隣の人に感想を書いてもらう。

3 南の国から (阿部昭)

- ① 作者の述べる「自由」「青春」について二人組でインタビューする。
- ② 作者阿部昭氏に手紙を書く。

4 まとめ

A どういう配慮をしたか。

夏休みの課題であった「聞き書き」を交流し合う。いろいろな人生、二十歳の頃があることを実感する。そして、自分がどういう二十歳の頃を迎えたいのか、を考える。そして、そのためには今何をすべきなのかを見つめさせたい。

B どういう力をつけることができたのか。

「聞き書き」を実施して、「聞くこと」の難しさを実感することができた。また、聞いたことを「書くこと」で語り手の気持ち思いやることができた。

大津高校

1 ジョイント授業の実施 (夏休み)

本校では初めての取り組みであるが、立命館大学の講義室をお借りして、三日間、「夏期補習」を実施した。その中で他教科の先生の応援も仰ぎながら、一度デイベートの初歩を実施してみることにした。一五七名の参加者数であったので、この人数でいかにデイベートに持つていくか、その方法に悩んだ。研究会のメンバーにも相談し、いろいろなアイデアや資料の提供などを受けた。

- ① 当日(8/3)までに下調べできるように、夏休みに入る前に参加生徒には各自のテーマを示しておいた。テーマにはデイベートの形が取れるようなものを選んだ。「脳死患者からの移植は認められるべきである」「夫婦別姓にするべきである」「日本の高校生は幸せである」「校則は必要である」の四テーマ。
- ② 実施日前日の自習時間を利用して、NHKの「クローズアップ現代」の「高校デイベート甲子園」のビデオを見せておいた。
- ③ 当日は六人グループでの小デイベートの後、各テーマにつき一グループずつが前に出て、デイベートを披露した。
- ④ 各テーマの専門の先生から講評をいただいた。
- ⑤ デイベートは「初めて」という生徒が多く、その新鮮さも手伝って、おおむね好評であった。

2 大岡信「言葉の力」

- ① 「言葉の力」の単元に入る前に、事後インタビュー学習をすることやインタビューの項目についてプリントで説明しておく。

② 言葉に対するアンテナを高くすることを常に促しつつ「言葉の力」の単元の学習。

③ インタビュー学習

1 「インタビューする前に」配布

2 インタビュー実施

3 「インタビュー学習して見て」を書く。

3 まとめ

(夏期補習での「ジョイント授業」は総合学習的なものを目指してはいたが、聞き書きということとは多少趣を異にするので、以下のA、Bについては、「言葉の力」の「インタビュー学習」についての考察としたい。)

A どういう配慮をしたか。

教科書の「言葉の力」では「氷山の下側の部分」などの比喩を用いて、言葉と心の関わりについて述べていた。日常用いている言葉の力の謎や、疑問点が解けるように、授業中は随時配慮したつもりである。それを講義の場ではなく、実際に身をもって体験してもらう場としてインタビューを設定した。とにかく話し合う内容もさることながら、「話し合うことそれ自体」を楽しむことができるように配慮し、また、特に言葉については、それぞれが皆、思うところがあるのだというを感じていけるように場の設定をした。

B どういう力をつけることができたのか。

生徒たちは、自分の言語生活を振り返ることによって自分の言葉への思いを再確認することができたのではないかと思う。「普段言

言葉についてこんなに真剣に考えたことはなかった」「何気なく使っていたが、「言葉、恐るべし」というような感想も聞かれた。

また、他者の言葉への思いを聞くことによって、強い共感を覚えたり、意外なもの感じ方に気づいたりして、言葉の世界の奥深さにふれ、改めて「言葉の力」のプラス、マイナス両方とも大きさに敏感になるという力がついたと思う。

以下は生徒の感想の抜粋である。

・こんな話は普段よくしゃべっている人ともめつたにしない。長い間胸にためていて、初めて言葉にした。すっきりした。

・同じ「がんばって」でも言われてうれしい人もいれば、いやに思う人もいる。言葉って難しいなと思いました。普段からよく考えて話すべきだと改めて思いました。

・ペアの人の話を聞いているとその人の「歴史」がわかる気がする。

・お母さんと私の話がかみ合わない訳がわかった。

・メールもいいけど、やっぱり会って話さなければ。

インタビュー学習後、「ペアの心の、「氷山の下側の部分」に少しでも触れたと思う人、手を挙げてみてください。」と尋ねたところ、ほとんどの生徒が手を挙げていた。

甲 西高校

1 校長先生の話聞き、隣の人と質問項目を考える。

質問し、答えてもらい、先生の話と契機として考えたことを文章にする。

一学期の芭蕉についての講演授業の次を受け、学校長に話をしてもらう。前回と同じく、2クラス合同で話を三〇分聞く。隣に座った他のクラスの人と、講演の中で一番印象に残った話をインタビューし合い、更に校長先生に対する質問を考えさせる。残り時間直接に指名してもらいながら、質問に答えてもらう。

2 芥川龍之介「羅生門」

羅生門新聞を作成する中で仮想インタビューコーナーをつくる。実際に聞き書きをするのではないが、文学教材の中でもこのような取り組みをすることによって、効果があがることを理解させる。

3 評論大岡信「言葉の力」

「言葉の力」の学習の後、言葉についての相互インタビューをする（大津高校の取り組みより）更に、同じ質問項目で年上の人にインタビューはさせる。

4 A L Tの先生の話聞き、隣の人と質問項目を考える。

A L Tの先生に質問し、答えてもらい、前回の校長先生の解きと同じく、先生の話の契機として考えたことを文章にする。

A どういう配慮をしたか

前回と同じスタイルにし、授業の効率をあげたこと。質問を考えさせることにより、話をしっかり聞かそうとしたこと。家庭学習でじっくり取り組ませることにし、聞いたことがしっかりと自分のものになるようにしたこと。インタビューの基本をもう一度押さえ

る。隣の人というのではなく、アトランダムに隣の人が決まるようにした。「言葉」についての自分の思いを充分に語らせる時間を取った。どんな力があったのか生徒自身に自覚出来るように働きかけた。

B どういう力をつけることができたのか

自分の生き方について考えさせることができた。内容を理解することにより、質問と答えを考える力をつける。年上の人に聞き書きすることで、その人の生き方を理解することができた。

四 結果の考察と今後の課題

一年間にわたり、各校で「聞き書き」を積極的に実践してきた。

「聞き書き」指導にあたっては「話すこと・聞くこと」だけの指導に終わらず、「読むこと」「書くこと」の指導と併せて実施してきた。新学習指導要領には「話すこと・聞くこと及び書くこと」の指導は相互の関連を図りながら効果的に行う」とある。今回の実践は「相互の関連が図れた」指導であった。俳句短歌・小説・評論等の単元でもあっても、授業を工夫することで「聞き書き」指導に迫れることが実証された。

「伝え合う力」を高めるためには、伝えたい内容を持たせることと、それを伝える方法や技術を獲得させることが重要になってくる。今回の授業の中で反省しているのは、生徒が心から伝えたいという思いを持って取り組んだであろうかということだ。先生が課題に出すから、仕方なく取り組む。成績に関わるから何とか仕上げるというのが本音の部分であったらう。また、伝え合うことが自分にとつ

て喜びであれば生徒はもっと生き生きしてくるはずである。現任校の生徒は「自分の思いを伝えるのは恥ずかしい」と言いながら、実際は非常にうまく話せる生徒が多い。また、文章を書くことも決して不得意ではない。私が常に「言葉の力」を認識させるような授業を積み上げていけば、言葉を大切に思う生徒達、自らの思いを伝えようとする生徒達を育てていけるはずである。これから段階をふまえてこの力を伸ばしていけたらと願っている。

さて、早稲田実業高校の町田守弘先生は国語教育に聞き書きを取り入れることの意義として次のように述べておられる。(月刊国語教育二〇〇一年一月号「聞き書きという戦略」)

- ① 日常生活に密着した生きた言葉の学習を、活動を通して展開することができる点
 - ② 「話すこと・聞くこと」「書くこと」および「読むこと」の各領域の言語活動を、総合的に展開することができる点
 - ③ 相手とのコミュニケーションを通して、ことばによる人間関係を築くことができる点
 - ④ 個人の体験の理解を通して、その人が生きた時代および社会を見つめることができる点
- 実践研究に共同で取り組んできた中で、「聞き書き」は国語科で育てたい情報活用能力をほとんど含んでいることがわかってきた。学習活動としては次の四点が考えられるだろう。
- ① 情報提供者の選択
 - ② 情報の収集
 - ③ 情報の分類・選択

④ 情報の発信

これらを言いかえれば、次のようになろう。

- ① 自分の問題意識と関連付けて課題を設定する。
- ② 直接会って話を聞くことにより、自分の知りたい情報を得る。
- ③ インタビューの中で必要な部分を捨捨選択する。
- ④ 自分の思いをわかりやすく人に伝えるための文章の書き方について工夫する。
- ⑤ 学習を振り返ることで、自分の変化と学習方法のよかった点、足りなかった点を自覚することができる。

冒頭にも述べたように、「総合的な学習」においては調査活動が重視されるが、その際文献調査とともに多用されるのが、「聞き書き」であろう。「聞き書き」を国語科で指導するにはどのような授業展開が考えられるのか、「聞き書き」による文章化をさせるにはどのような手立てが考えられるのか、共同研究してきた。

「聞き書き」を実践して生徒の反応から見えてきたものは以下の3点である。

- ① 語り手の生き方にせままれる。
- ② 社会問題に気がつく。
- ③ 自分自身の生き方を考える。

これは国語科だけの目標にとどまらず「総合的な学習」の理念につながるものであるということを如実に実感した。

今後、総合的な学習の実施に向けて国語科の果たす役割は非常に大きい。現任校でも学校設定教科として中学校「言語科」高校設定

科目「言語」を新たに設け、国語科が中心になって取り組む準備を始めている。「淡海」ことは研究会で実践してきた事柄を、現任校の国語科の職員の中で広め、研修していかねばならない。その際、日頃の読解中心の授業からの解放のような形の中での音声言語指導ではなく、基礎的なものからより高度なものへ、四月の授業開きから学期、学年の進行に合わせて計画的に組まれることが必要になってくる。中高一貫教育や総合的な学習の単元を考えていく中で、この考えを充実してものにしていきたいと願っている。新しい動きは始まったばかりである。

(水口東高校)

中嶋先生は、前記の如く、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

1370-20-500

小嶋先生は、前記の如く、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

1370-20-500

日本人初!! 飛行成功

航空機は、人類の歴史の中で最も重要な役割を果たしてきた。その中でも、日本人が初めて飛行に成功したのは、1910年である。この日は、東京の浅草公園で、日本人初の飛行機「飛行機」が、日本人初の飛行士「尾花実三郎」によって、初めて飛行に成功した。この飛行は、日本人の航空史に重要な一ページを刻みつけた。尾花氏は、この飛行に成功した後、多くの飛行機を開発し、日本の航空事業に貢献した。彼の功績は、日本人の航空技術の発展に大きな役割を果たした。この飛行は、日本人の航空史に重要な一ページを刻みつけた。尾花氏は、この飛行に成功した後、多くの飛行機を開発し、日本の航空事業に貢献した。彼の功績は、日本人の航空技術の発展に大きな役割を果たした。

清水新聞

2001年 1-2
1-2

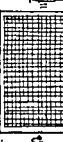
広がる教養

読者の明は、この教養の広がりを見ることが出来る。この教養は、人々の生活に大きな影響を与えている。教養は、人々の心を豊かにし、社会の発展に貢献している。教養は、人々の生活を豊かにし、社会の発展に貢献している。教養は、人々の生活を豊かにし、社会の発展に貢献している。

才又又Xの

この才又又Xの、人々の生活に大きな影響を与えている。この才又又Xの、人々の生活に大きな影響を与えている。この才又又Xの、人々の生活に大きな影響を与えている。

一度高のよきに、
探してみたい方は、
1回300円(税別)



この本は、人々の生活に大きな影響を与えている。この本は、人々の生活に大きな影響を与えている。この本は、人々の生活に大きな影響を与えている。

能登の素顔

能登の素顔、人々の生活に大きな影響を与えている。能登の素顔、人々の生活に大きな影響を与えている。能登の素顔、人々の生活に大きな影響を与えている。

能登守道に散る...

能登守道に散る...、人々の生活に大きな影響を与えている。能登守道に散る...、人々の生活に大きな影響を与えている。能登守道に散る...、人々の生活に大きな影響を与えている。

2001年 1-2
1-2

判官教経

判官教経、人々の生活に大きな影響を与えている。判官教経、人々の生活に大きな影響を与えている。判官教経、人々の生活に大きな影響を与えている。

2001年 1-2
1-2



能登、人々の生活に大きな影響を与えている。能登、人々の生活に大きな影響を与えている。能登、人々の生活に大きな影響を与えている。

2001年 1-2
1-2